

平成31年度 志賀中学校教育目標

I 校訓 「自主 自律 創造」

II 教育目標 自ら学び、心身を鍛え、未来の創り手となる生徒の育成を目指す

1 めざす生徒像

- (1) 自らの学びを実感し、自己実現に向かって努力する生徒
- (2) 思いやりと感謝の心を持ち、自己を見つめて生き方を考える生徒
- (3) 健康で逞しい心身を持ち、他者と協働しながら問題解決に立ち向かう生徒

2 めざす教師像

- (1) 生徒をよく理解し、一人一人の可能性を引き出し伸ばす教師
- (2) 愛情を持って指導し、生徒・保護者・地域から信頼される教師
- (3) 教師としての誇りを持ち、生徒と共に成長する教師

3 めざす学校像

- (1) 生徒と教師が共に学び合い、生き生きと活動する活気に満ちた学校
- (2) 安全で生徒が安心して学ぶ環境を整え、笑顔があふれる学校
- (3) 家庭・地域と連携し、共に生徒を育てる開かれた学校

III 今年度の重点目標

1 学力の向上

- (1) 組織的に学力向上に向けて「授業づくり、基盤づくり、体制づくり」を推進する。
- (2) 活用力の育成と「学びの実感」を目指した授業改善に努める
- (3) 基礎学力・活用力定着のための帯タイム・家庭学習の工夫をする
- (4) 主体的な学習態度育成のための学習規律の共通理解と徹底を図る

2 生徒指導の充実

- (1) 生徒の自己存在感、自己決定の場を持ちながら、共感的な人間関係を育む。
- (2) 生徒理解に努め、信頼関係を築くとともに共に成長を目指す。
- (3) チームとして、不登校、いじめ、問題行動への対応を行う。
- (4) 小学校と連携して「挨拶・返事・掃除」など規範意識の育成に努める。

3 心の教育の充実

- (1) 家庭・地域と連携した道徳教育の充実を図る。
- (2) いじめ・不登校を生み出さない温かい集団づくりに努める。
- (3) 健康・安全・食に関する指導を充実し、感情をコントロールする力を育成する。
- (4) 学級・生徒会活動、学校行事、部活動などを通して自己有用感の向上を図る。

4 教師力の向上

- (1) 教育公務員としての自覚を持ち、生徒の手本となる言動を行う。
- (2) 保護者や地域の声を真摯に受け止め、丁寧な説明、迅速な対応を行う。
- (3) 地域交流やPTA活動の推進で、安心・安全で開かれた学校づくりに努める。
- (4) 働き方の見直しを進め、自己研鑽に努める。

校訓 「自主 自律 創造」

教育目標 自ら学び、心身を鍛え、未来の創り手となる生徒の育成を目指す

めざす生徒像

- ・自らの学びを実感する生徒
- ・生き方を考える生徒
- ・問題解決に立ち向かう生徒

めざす教師像

- ・生徒を伸ばす教師
- ・信頼される教師
- ・共に成長する教師

めざす学校像

- ・活気に満ちた学校
- ・安全・安心な学校
- ・連携して開かれた学校

今年度の学校経営の重点

- | | | | |
|---|---|--|--|
| <p>1 学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織的に推進 ・授業改善 ・学んだ力の定着 ・学習規律の徹底 | <p>2 生徒指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的生徒指導 ・信頼関係 ・チームとして対応 ・規範意識の育成 | <p>3 心の教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の充実 ・温かい集団づくり ・感情コントロール力の育成 ・自己有用感の向上 | <p>4 教師力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手本となる言動 ・迅速な対応 ・地域との交流 ・若手育成・働き方改革 |
|---|---|--|--|

何ができるようになるか

(育成を目指す資質・能力)

- ・自分の考えを、根拠を明確にして相手に説明したり書いたりして伝えることができる
- ・多面的・多角的に考え、自らの判断によって適切な行為を選択し、実践することができる

何が身に付いたか

(PDCAサイクルに基づく評価・改善)

- ・生徒の意識調査により「自分の考えを伝えること」に満足している割合を9割に伸ばす
- ・「特別の教科道徳」の時間における評価を充実させ「多面的・多角的に考える」割合を伸ばす

生徒の実態

- ・明るく快活
- ・学習状況の個人差が大きい
- ・自信が持てず学ぶことの意義を見いだせない生徒もいる
- ・学んだ言葉を用いて説明する力や書く力が弱い
- ・他者と関わり人間関係づくりが苦手な生徒がいる

学びの実感

- ・自己の考えの変容
- ・自己の考えの強化
- ・他者との共感・比較
- ・多様な考えの獲得
- ・解決できた喜び
- ・次の学びへの意欲

配慮を要する生徒への支援

- ・生徒理解に努め、生徒一人一人のよさを認める
- ・職員間で情報共有を行い、協働して支援にあたる
- ・支援員、ハートフル相談員、スクールカウンセラーと連携して、ニーズを把握して支援を行う

何を学ぶか (教育課程の編成)

- ・各教科を通して付けたい力を明確にする「知識・技能」の習得
- ・「思考力・判断力・表現力等」の育成
- ・「学びに向かう力・人間性等」の涵養
- ・教科横断的な視点の共有
- ・「学校研究の視点」
- ・「授業スタイル」
- ・家庭・地域と連携した道徳教育
- ・人間関係づくりを意識した特別活動

どのように学ぶか

(教育課程の実施、工夫改善)

- ・授業スタイルの統一 (志賀中ストリーム)
- ・「学び合い」を活かした「まとめ」
- ・「振り返り」に重点を置く (MJシート)
- ・「考え、議論する」道徳授業を構築する
- ・効果的な帯タイム、家庭学習の工夫改善
- ・学習規律の徹底 (志賀中モード)
- ・地域、小学校との連携 (GT、キーワード)
- ・エンカウンター等の実施

実施するために何が必要か (指導体制の充実)

- ・学力向上ロードマップの作成・活用 (チームと校務分掌をリンクさせる)
- ・校内研修の充実 (計画的な研究授業、要請訪問、校内OJT、若手教員早期育成プログラム)
- ・地域連携、外部人材の活用 (ゲストティーチャー、体験学習、ボランティア活動等)
- ・学校報やホームページ、保護者説明会等で、学校の教育活動について積極的に情報発信する
- ・教職員人事評価を効果的に活用し、目標の設定、実現状況を確認しながら実践する